

授業調査からみた授業改善の一考察

磯 谷 彰 男

1. はしがき
2. 授業調査票
3. 調査票の集計結果とその分析
4. 授業をよりよくするために
5. あとがき

1. はしがき

近年、大学における学生による授業評価はFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動のなかで重要な実施事項の一つとして位置付けられ、様々な議論を経ながら多くの大学で実施されている¹⁾。本学名古屋商科大学における授業評価は教員の教授法改善を目的として、平成2年度より全教員を対象とする授業調査として始まった。実施方法などは各大学それぞれで、全学、全教員を対象として実施しているところは必ずしも多くはないが、本学ではセミナーを除くすべての授業が調査対象となっている。前期および後期の最終講義の時間に実施している。本学における授業調査の実施方法、評価結果などの概要については本学の教育白書『21世紀の大学像を求めて』に記述した²⁾。

授業調査には授業改善のための示唆に富む情報が含まれている。個々の授業について学生による評価の集計データである個票がそれぞれに作成され、担当する教員にフィードバックされる。その個票により教員は自分自身の講義に対する学生の受けとめ方を把握し、次期の講義に活用している。それは教員にとって授業改善のための有用な資料となっている。個々の授業の個票はいわばミクロな視点からの結果であるが、授業調査票全体を一つの母集団として集計することや個々の授業の結果を全体として捉えることはマクロな視点からの分析結果として有用な情報をもたらす。本稿は本学における授業調査結果を

全体として捉え、授業改善のための方策に関して検討したものである。対象とした授業調査は平成14年度前期に実施されたものである。

2. 授業調査票

本学では授業調査票の設問を年度ごとに見直し、改訂を行っている。平成13年度までは全科目について同一の調査票を使用していた。平成14年度は講義科目の性格により一般科目、語学科目、体育科目と3群に分け、それぞれの科目群に適した調査票を作成し、実施した。一般科目とは語学科目、体育科目およびセミナーを除くすべての科目を指している。

それぞれの授業調査票について以下に説明する。なお、図表1に示した各設問の末尾の[]の部分に書かれた言葉は設問のキーワードであり、授業調査票には記載されていない。本稿での説明を判りやすくするため記載したもので、設問の内容を代表する表示としてこの言葉を用いて説明する。

(1) 一般科目

一般科目の調査票の構成を図表1(a)に示す。設問は15項目設定されている。設問1、2は学生の所属を問い、それぞれ学部、学年を記入する。設問3は授業の目的、設問4は授業の有用性、設問5、6は授業の進め方に関する項目で、それぞれ重点のわかりやすさ、話し方を対象としている。設問7は授業の性格、設問8、9、10は授業支援に関する項目で、それぞれ教科書・資料配付、課題の提出、教育機器の活用を対象としている。設問11は教員の熱意、設問12、13は授業内容に関するもので、それぞれ学修により修得したものが多かったか、理解できたかを問うている。設問14は設問の総まとめに相当し、他の学生に薦められるかを尋ねている。設問15は学生

図表 1 (a) 一般科目の授業調査票

授 業 調 査 票 (一般科目)

FD 推進委員会

教員はよりよい授業をめざして種々の工夫を重ね、日夜努力しています。この調査は授業の改善に役立てるための大切な資料となるものです。あなたの誠実な回答と授業改善のための率直な意見を期待します。教員はそれらを授業のなかに反映させることに努めます。また、この結果はインターネットで公開します。

記入方法：回答用紙の設問番号ごとのA～Eまでの欄に | を記入して回答して下さい。

なお、回答は一問一答でご回答下さい。

(1) あなたの学部を教えてください。

A：商学部 B：総合経営学部 C：経営情報学部 D：外国語学部 E：短大

(2) あなたの学年を教えてください。

A：1年 B：2年 C：3年 D：4年

(3)～(15)は次の基準に従って教えてください。

A：全くその通りである B：その通りである C：普通

D：そうではなかった E：全然そうではなかった

(3) この授業の目的ははっきりしていた。[目的]

(4) この授業は有益であった。[有益性]

(5) この授業は重点がわかりやすく工夫されていた。[重点]

(6) 先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。[話し方]

(7) この授業は知的興味をひきつけるものであった。[知的興味]

(8) この授業の教科書・配付資料は適切であった。[資料]

(9) 先生から提示された課題（宿題・レポートなど）は教科の理解を深めるうえで有用であった。[課題]

(10) 先生は教育機器（黒板、パソコン、OHP、ビデオ、オーディオなど）を効果的に使用した。

[教育機器]

(11) 先生の教え方には熱意が感じられた。[教員の熱意度]

(12) 私はこの授業を通して多くのことを学んだ。[修得]

(13) 私はこの授業の内容をよく理解できた。[理解度]

(14) 私はこの授業を他の学生にも薦めたい。[推薦]

(15) 私はこの授業に熱心に取り組んだ。[学生の熱心度]

(16) (空白で、それぞれの教師が設定する設問欄)

(17) ↑

(裏面)

- ・この授業でどの点がよかったと思いますか。
- ・この授業でどの点を改善すればよいと思いますか。
- ・この授業に関するあなたの自由な意見を聴かせてください。

図表 1 (b) 語学科目の授業調査票

授 業 調 査 票 (語学科目)

前文、(1)、(2)、裏面の設問は一般科目調査票と同じ

- (3) 先生の指導は学生の習熟度（レベル）についてよく考慮されていた。[習熟度]
- (4) この授業は有益であった。[有益性]
- (5) 先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。[話し方]
- (6) 先生は学生が積極的に参加するように奨励した。[参加]
- (7) この授業の教科書・配付資料は適切であった。[資料]
- (8) 先生から提示された課題（宿題・レポートなど）は教科の理解を深めるうえで有用であった。[課題]
- (9) 先生は教育機器（黒板、パソコン、OHP、ビデオ、オーディオなど）を効果的に使用した。
[教育機器]
- (10) 先生とのコミュニケーションがうまく図れた。[コミュニケーション]
- (11) 先生の教え方には熱意が感じられた。[教員の熱意度]
- (12) この授業は語学力の向上あるいは文化の理解にとって効果的であった。[語学力・文化]
- (13) 私はこの授業を通して多くのことを学んだ。[修得]
- (14) 私はこの授業を他の学生にも薦めたい。[推薦]
- (15) 私はこの授業に熱心に取り組んだ。[学生の熱心度]

図表 1 (c) 体育科目の授業調査票

授 業 調 査 票 (体育科目)

前文、(1)、(2)、裏面の設問は一般科目調査票と同じ

- (3) この授業の目的ははっきりしていた。
- (4) この授業は有益であった。
- (5) この授業は重点がわかりやすく工夫されていた。
- (6) 先生の指示は的確であった。
- (7) この授業はチャレンジ精神を高めるものであった。
- (8) 先生の教え方には熱意が感じられた。
- (9) 先生とのコミュニケーションがうまく図れた。
- (10) 私はこの授業で身体を動かすことの楽しさを味わうことができた。
- (11) この授業は基礎体力・技術向上に役立つものであった。
- (12) これからもスポーツ活動を続けたい。
- (13) 私はこの授業を他の学生にも薦めたい。
- (14) 私はこの授業に熱心に取り組んだ。

の授業への取り組み姿勢で熱心度である。

各設問に対して次の5段階で評価させている。

A：全くその通りである

B：その通りである

C：普通

D：そうではなかった

E：全然そうではなかった

データ処理にあたってはA、B、C、D、Eをそれぞれ5、4、3、2、1とし、数値化して集計している。

教員のなかには授業を進めるそれぞれの立場から学生に尋ねたい事項がある。そこで、設問の16、17に追加の欄を設けて対応可能にしている。

裏面に当該講義に関する要望など、教員や大学に伝えたい意見を学生が自由に記入できる記載欄を設けている。記入された事項には建設的な意見やそうでもないものがあるが、調査票評価値と照らし合わせることで授業に対するその学生の姿勢や意向を知ることができる。

(2) 語学科目

語学科目の調査票の構成を図表1(b)に示した。一般科目と同様に設問は15項目設定され、そのうち一般科目とは異なる設問は5項目である。一般科目と異なる設問として、設問3は学生の学力レベルへの配慮、設問6は授業への積極的参加、設問10は教員とのコミュニケーション、設問12は語学力向上・文化の理解について問うている。

前文、設問1、2の所属の設問、裏面は一般科目と同じである。

(3) 体育科目

体育科目の調査票の構成を図表1(c)に示した。設問は14項目設定され、体育科目特有の設問は5項目である。設問6は指示的的確性、設問7はチャレンジ精神、設問10は運動の楽しさ、設問11は体力・技術向上、設問12は今後について問うている。

前文、設問1、2の所属の設問、裏面は一般科目と同じである。

3. 調査票の集計結果とその分析

3.1 一般科目

(1) 平均ポイントと比率

一般科目の総数は265クラスで、学生から提出された授業調査票の総数(サンプル数)は約21,000点である。平成14年度前期における一般科目の集計結果を図表2に示す。各設問に対してA、B、C、D、Eの評価をしたサンプルの数とその比率およびその評価ポイントを平均した平均ポイントが示されている。平均ポイントが高い項目は設問3[目的]の3.80、設問11[教員の熱意度]の3.71、設問4[有益性]の3.68である。最も低い項目は設問13[理解度]の3.26である。他の設問の多くは3.5~3.6である。

図表3に各設問に対するA、B、C、D、Eの評価の比率を円グラフで示す。評価比率では、多くの設問でA[全くその通りである]が20%程度、B[その通りである]が30%程度であり、肯定的な回答であるAとBの和が50%を超え、半数以上の学生が評価していることを示している。例えば設問4[有益性]ではA+Bは57%となっている。否定的な回答であるD[そうではなかった]とE[全然そうではなかった]は10数%程度と少数である。

(2) クラスサイズと平均ポイントの関係

一つの授業を構成するクラスの学生数とクラス全員の平均ポイントとの関係を調べるため、それぞれの設問項目に対して、各授業の平均ポイントを1つの点、すなわち1クラスを1点としてプロットしたグラフを作成した。横軸は授業クラスの人数であり、縦軸はクラスの平均ポイントである。代表例として設問4[有益性]、設問7[知的興味]、設問13[理解度]、設問15[学生の熱心度]に関するグラフを図表4に示す。いずれの設問に対してもクラスによる平均ポイントのばらつきが大きく、クラスサイズの依存性については必ずしも明確ではない。クラスサイズが50名以上ではクラスの平均ポイントはクラスサイズに依存していないとみてよい。50名未満の比較的少人数クラスでは依存性が若干認められ、その勾配は-0.02~-0.03/人程度である。すなわち

図表2 一般科目の評価の比率と平均ポイント

集計結果（一般科目）

データ件数21,410件

設問	A	B	C	D	E	回答件数	回答空白	設問内容
1	9,069 42.7%	6,429 30.3%	3,995 18.8%	1,602 7.5%	143 0.7%	21,238	172	あなたの学部を教えてください。 A：商学部 B：総合経営学部 C：経営情報学部 D：外国語学部 E：短大
2	5,380 25.3%	5,406 25.4%	5,500 25.9%	4,963 23.4%	0 0.0%	21,249	161	あなたの学年を教えてください。 A：1年 B：2年 C：3年 D：4年

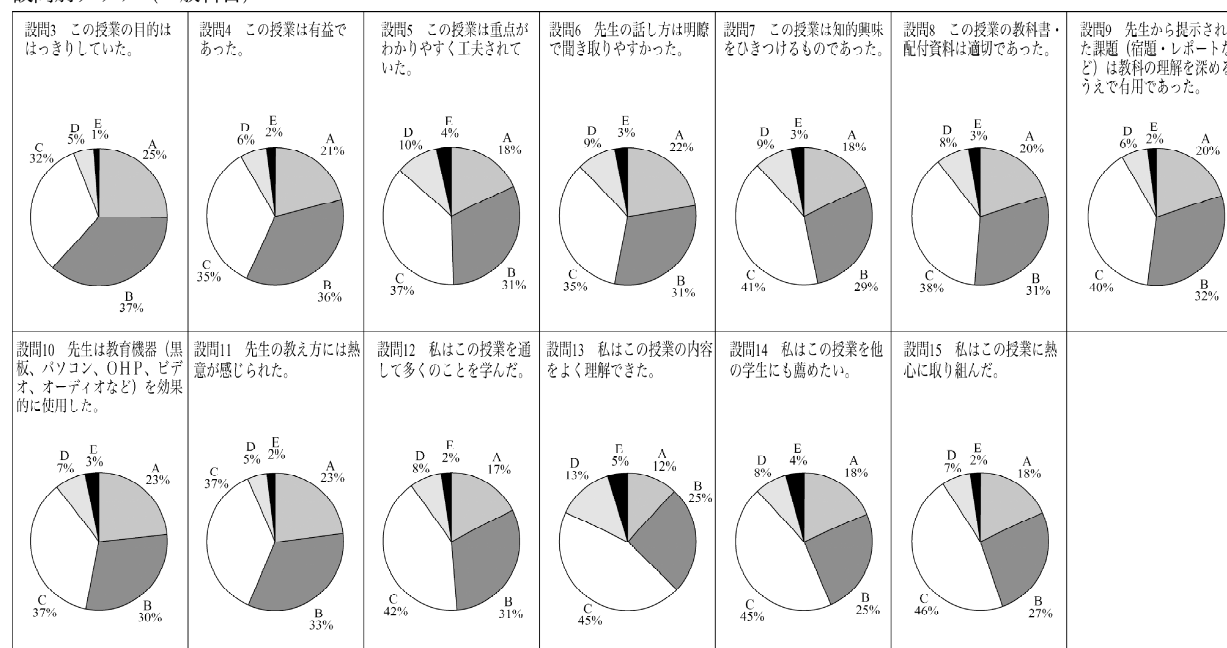
*設問3～15は次の基準に従って教えてください。 A：全くその通りである B：その通りである C：普通
D：そうではなかった E：全然そうではなかった

*平均ポイントは、A－5点、B－4点、C－3点、D－2点、E－1点として計算したもの。

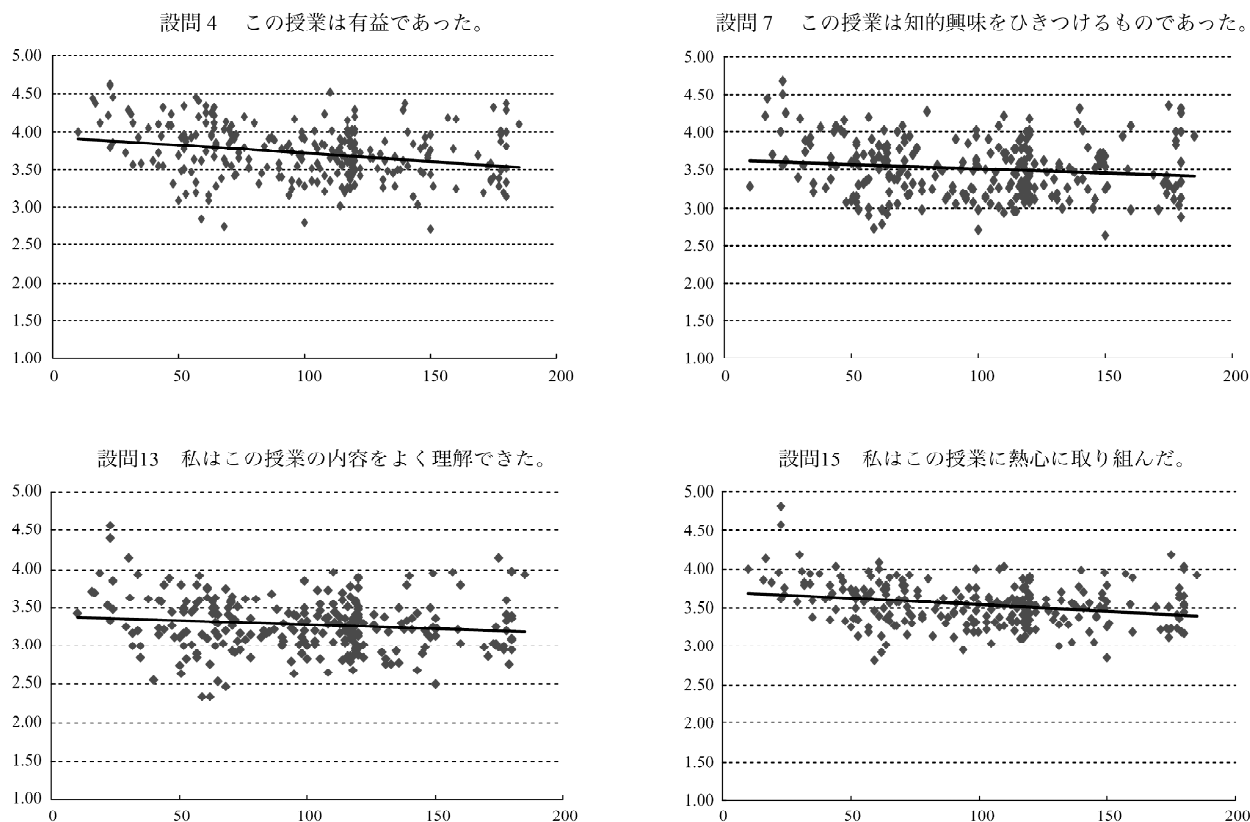
設問	A (5)	B (4)	C (3)	D (2)	E (1)	回答件数	回答 空白	平均 ポイント	設問内容
3	5,423 25.3%	7,824 36.6%	6,847 32.0%	984 4.6%	315 1.5%	21,393	17	3.80	この授業の目的ははっきりしていた。
4	4,534 21.2%	7,668 35.8%	7,434 34.7%	1,276 6.0%	481 2.2%	21,393	17	3.68	この授業は有益であった。
5	3,876 18.1%	6,687 31.3%	7,909 37.0%	2,133 10.0%	783 3.7%	21,388	22	3.50	この授業は重点がわかりやすく工夫されていた。
6	4,796 22.4%	6,575 30.7%	7,395 34.6%	1,943 9.1%	678 3.2%	21,387	23	3.60	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。
7	3,865 18.1%	6,121 28.6%	8,826 41.3%	1,907 8.9%	670 3.1%	21,389	21	3.50	この授業は知的興味をひきつけるものであった。
8	4,321 20.2%	6,662 31.2%	8,133 38.1%	1,632 7.6%	620 2.9%	21,368	42	3.58	この授業の教科書・配付資料は適切であった。
9	4,253 19.9%	6,898 32.3%	8,427 39.5%	1,333 6.2%	450 2.1%	21,361	49	3.62	先生から提示された課題（宿題・レポートなど）は 教科の理解を深めるうえで有用であった。
10	4,990 23.3%	6,332 29.6%	7,823 36.6%	1,543 7.2%	684 3.2%	21,372	38	3.63	先生は教育機器（黒板、パソコン、OHP、ビデオ、 オーディオなど）を効果的に使用した。
11	4,960 23.2%	7,088 33.1%	7,919 37.0%	1,006 4.7%	412 1.9%	21,385	25	3.71	先生の教え方には熱意が感じられた。
12	3,740 17.5%	6,672 31.2%	8,848 41.4%	1,615 7.6%	512 2.4%	21,387	23	3.54	私はこの授業を通して多くのことを学んだ。
13	2,559 12.0%	5,411 25.3%	9,531 44.6%	2,873 13.4%	1,009 4.7%	21,383	27	3.26	私はこの授業の内容をよく理解できた。
14	3,899 18.2%	5,423 25.4%	9,502 44.4%	1,628 7.6%	934 4.4%	21,386	24	3.45	私はこの授業を他の学生にも薦めたい。
15	3,836 18.0%	5,678 26.6%	9,822 46.1%	1,450 6.8%	527 2.5%	21,313	97	3.51	私はこの授業に熱心に取り組んだ。

図表3 一般科目の評価の比率

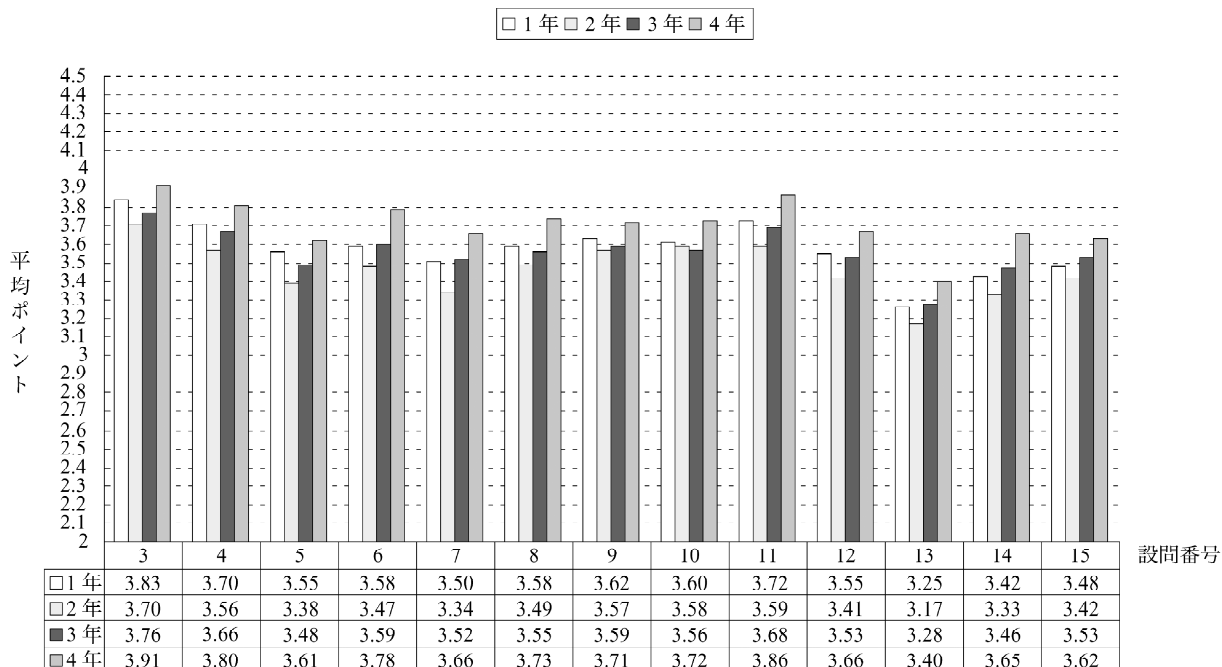
設問別グラフ（一般科目）



図表4 一般科目のクラスサイズ依存性



図表5 一般科目の学年別平均ポイント



受講する学生が10人増加すれば平均ポイントは0.2～0.3程度低くなっている。

(3) 学年次と平均ポイントの関係

学生の学年次による評価ポイントの依存性を調べた。例年、各学年次毎に集計した平均ポイントでは1年次の学生が最も低く、2年次、3年次、4年次と高学年になるほど高くなる傾向が認められ、年次が1年上がる毎に平均ポイントが0.1程度上昇していた。本年度の一般科目の学年別の平均ポイントを図表5に示す。例年と比べて本年度の際立った特徴はどの設問においても1年次の平均ポイントが2年次よりも高く、3年次とほぼ同じ平均ポイントとなっていることである。その要因の一つとして平成14年度より1年次学生を対象として基礎セミナーが開講されたことが挙げられる。1年次学生は高校と比べて自主性が求められる大学生活への戸惑いが多いことが指摘されていた。その課題の解消を図るため本年度より基礎セミナーが開講されたが、そこにおいて教員から適切な指導が行われたことが推察される。今後さらに推移を注視する必要がある。

(4) 設問間の相関

授業における重要なキーワードの間の関係を把握するため、各設問の間の相関性を調べた。設問間の相関係数を図表6に示す。各設問の間には全般的に正の高い相関があることが認められる。大別すれば、相関係数が0.7以上と極めて高いグループ（設問3、4、5、6、7、12、13、14、15）と0.7以下のグループ（設問8、9、10、11）に分けられる。前者は授業そのものに関する設問と学生の熱心度であり、後者は授業に関する手段などの間接的事項と教員の熱意である。

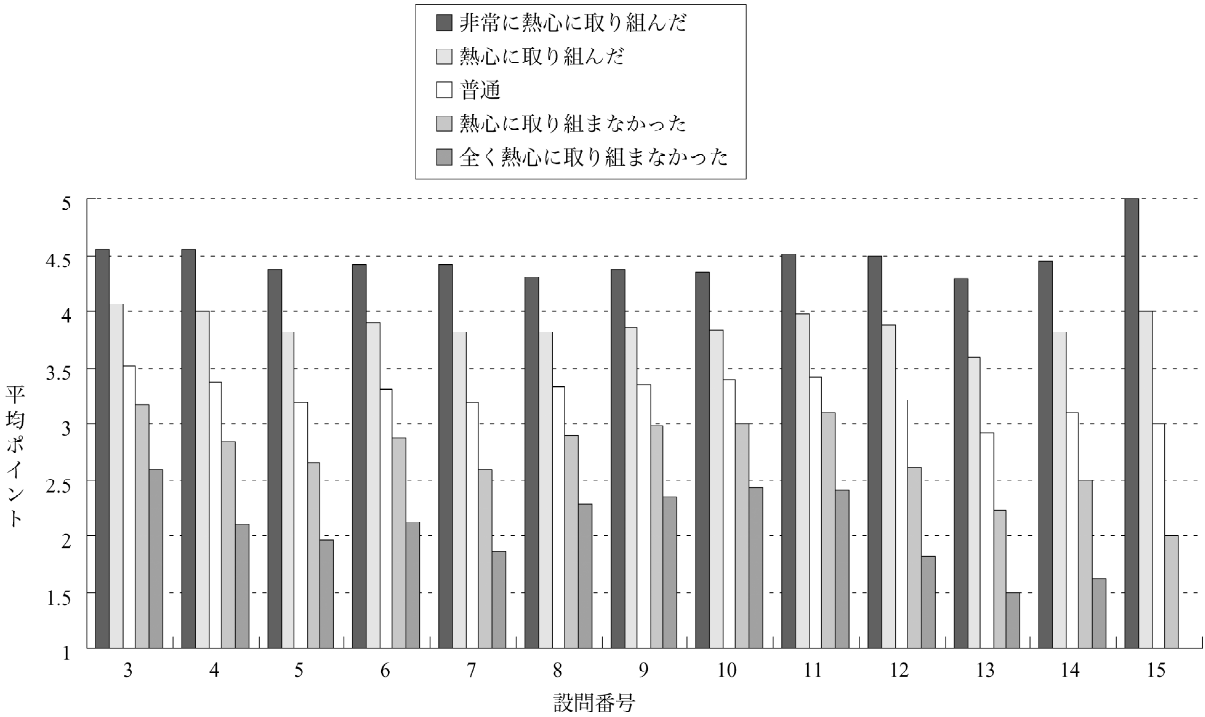
相関係数の値を吟味することで授業に関する重要事項を汲み取ることが可能である。例を挙げる。

最も高い相関は設問7〔知的興味〕と設問12〔修得〕で相関係数0.93であった。すなわち知的興味を喚起し引き付けられることで学生は学ぶ意欲が生まれ、多くのことを学んだことを実感するのであろう。授業に直接係わる設問の間の相関が高いことはそれぞれの因子が密接に関連し、互いに誘発していることが考えられる。非常に興味深いことは〔学生の熱心度〕の設問が、それらの設問と相関の高いことで

図表6 一般科目の設問間の相関係数

	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14	設問15	設問のキーワード
設問3		0.90	0.86	0.75	0.76	0.71	0.73	0.50	0.60	0.82	0.77	0.77	0.79	[目的]
設問4			0.86	0.76	0.87	0.69	0.68	0.51	0.58	0.92	0.85	0.87	0.86	[有益性]
設問5				0.86	0.77	0.76	0.72	0.54	0.68	0.82	0.85	0.85	0.82	[重点]
設問6					0.77	0.57	0.55	0.39	0.78	0.77	0.75	0.80	0.74	[話し方]
設問7						0.54	0.58	0.48	0.69	0.93	0.81	0.88	0.84	[知的興味]
設問8							0.73	0.47	0.48	0.65	0.63	0.65	0.63	[資料]
設問9								0.56	0.47	0.63	0.62	0.63	0.70	[課題]
設問10									0.25	0.48	0.41	0.48	0.49	[教育機器]
設問11										0.70	0.62	0.70	0.63	[先生の熱意度]
設問12											0.86	0.90	0.88	[習得]
設問13												0.92	0.86	[理解度]
設問14													0.87	[推薦]
設問15														[学生の熱意度]

図表7 一般科目の「学生の熱意度」別の平均ポイント



学生の熱意度	他の設問の平均ポイント	設問の平均ポイントを平均した値
非常に熱心に取り組んだ	4.3～4.6	4.4
熱心に取り組んだ	3.6～4.1	3.8
普通	2.9～3.5	3.2
熱心に取り組まなかった	2.2～3.2	2.7
全く熱心に取り組まなかった	1.5～2.6	2.2

ある。すなわち授業を進めるうえで学生の熱意がキーワードであることを示している。

学生が有益と評価する授業にはどのような因子が大きく作用しているかを相関関係の図表から読み取ってみる。設問4は設問5、7、12、13、14、15と相関係数が0.8以上と極めて高い。すなわち有益とする授業は知的興味を引き付けるもので、重点がわかりやすく、よく理解でき、多くのことが修得できたものである。それには学生自身も熱心に取り組み、結果として他の学生にも受講を薦めている。同様に、他の学生に推薦するものは有益で、知的興味をひきつけるものであり、重点がわかりやすく、話し方が明瞭で、多くのことが修得できるものとなる。

最も相関の低いのは設問10〔教育機器〕と設問11〔教員の熱意度〕で相関係数0.25であった。この値は相関があまりないとみてよい。これは教育機器を熱心に活用しても教員の熱意は低くみられる場合もあれば、逆に教育機器を活用しなくても教員の熱意が高く評価される場合もあることを意味している。

設問11〔教員の熱意度〕は他の設問と相関が比較

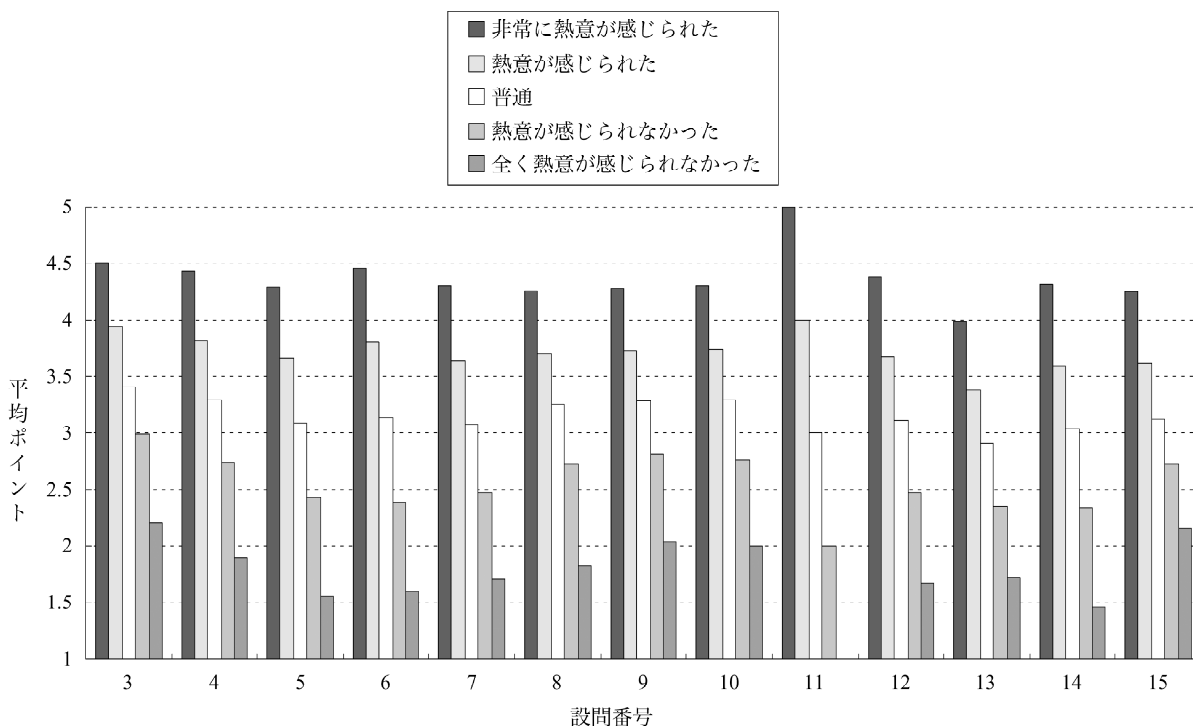
的低いが、設問6〔話し方〕とのみ0.78と高い。すなわち明瞭で聞き取りやすい授業をする教員を熱意があると学生は評価していることになる。話し方の重要性を示すものであろう。

(5) 学生の熱心度と平均ポイントの関係

学生の熱心度で分類し、平均ポイントを表したグラフを図表7に示した。また熱心度のランクで分けた各設問の平均ポイントの分布とその平均値を下表に示した。どの設問の平均ポイントも学生の熱心度が1ランク上がるごとに平均ポイントが0.5程度と大幅に上昇している。

非常に熱心に取り組んだ学生はどの設問にも高く評価している。最も低い値でも〔理解度〕の4.3と高い。熱心な学生はなにごとにも積極的に対処していることがうかがえる。自分の取り組みをDやEとした熱心に取り組まなかった学生が特に低く評価している項目は設問13〔理解度〕、設問12〔修得〕、設問7〔知的興味〕である。これは熱心に取り組まない学生は教科に知的興味を持つことができず、従って

図表8 一般科目の「教員の熱意度」別の平均ポイント



教科の内容も理解できず、修得するものが少なかったことを意味するものであろう。この悪い連鎖を断ち切ることが重要であることを示唆している。

(6) 教員の熱意

例年、設問のなかで平均ポイントが最も高いのは設問11 [教員の熱意度] である。今回は新しく設定した設問3 [目的] の方が高くなったが、[教員の熱意度] はそれに次ぐ値である。設問15 [学生の熱心度] よりも0.2ほど高い。平均としてみれば学生は教員の方が熱意があると評価していることになる。[教員の熱意度] が高いことや他の設問との相関が比較的小さいことから学生は教員の熱意を率直に評価していると考えられる。

学生からみた教員の熱意度で分類し、各設問の平均ポイントを表したグラフを図表8に示した。教員の熱意を高く評価した学生は他の設問いずれについても高いポイントを与えていて不満な点が浮き上がってこない。教員の熱意をD、Eと低く評価した学生の方からみれば問題点を見つけやすい。彼らが特に低く評価している項目は設問5 [重点]、設問6 [話し方]、設問12 [修得]、設問13 [理解度] である。すなわち重点がわかり難い、話しが聞き取り難い、理解できない、修得するものも少ない、それらの教員は学生の評価が低い。

3.2 語学科目

(1) 平均ポイントと比率

語学科目では一般科目と比べてクラスの人数が少数であることに大きな特徴がある。語学科目は205クラスで、サンプルの総計は約3,500点である。その集計結果を図表9に示す。全般的には一般科目と同様の傾向であるが、語学科目の平均ポイントは全般に高く、一般科目と同じ設問で比べて0.1~0.4高くなっている。平均ポイントが最も高いのは設問11 [教員の熱意度] で4.15であり、設問4 [有益性]、設問5 [話し方]、設問6 [参加]、設問12 [学力向上・文化]、設問15 [学生の熱心度] はいずれも3.9以上と高い。最も低い設問は設問10 [コミュニケーション] であるが、それでも3.75である。

図表10では各設問に対するA、B、C、D、Eの評価の比率を円グラフで示す。いずれの設問もAとBの和がほぼ60%を超え、特に設問4 [有益性]、設問11 [教員の熱意度] では70%以上となっている。大多数の学生が高く評価していることを示している。否定的な回答であるDとEの和は10%以下と少数である。

(2) クラスサイズと平均ポイントの関係

一般科目と同様に各設問に対してクラスを構成する学生数と平均ポイントとの関係を調べた。代表例として設問4 [有益性]、設問10 [コミュニケーション]、設問12 [語学力・文化]、設問15 [学生の熱心度] に関するグラフを図表11に示す。いずれもクラスサイズの依存性は明らかに認められ、少人数クラスの方が平均ポイントが高い。その勾配から1名増加するごとに0.02~0.03低下している。

(3) 学年次と平均ポイントの関係

語学科目の学年別の平均ポイントを図表12に示す。語学科目も一般科目と同様例年、平均ポイントは1年次が最も低く、高年次になるほど高くなっている傾向が認められる。しかし本年は一般科目と同様、1年次の平均ポイントが2年次はもとより、3年次よりも高い。その一つの要因として平成14年度より1年次学生を対象として基礎セミナーが開講されたことがある。これについては一般科目の項で述べた。

(4) 設問間の相関

各設問の間の相関係数を図表13に示す。各設問の間には正の高い相関がある。設問9 [教育機器]、設問15 [学生の熱心度] を除く設問間の相関係数は0.8以上という極めて高い相関を示している。換言すれば授業を進める上で設問の項目はいずれも重要であることを意味している。

(5) 学生の熱心度と平均ポイントの関係

学生の熱心度で分類し、平均ポイントを表したグラフを図表14に示す。また熱心度別の平均ポイント

図表9 語学科目の評価の比率と平均ポイント

集計結果（語学科目）

データ件数3,546件

設問	A	B	C	D	E	回答件数	回答空白	設問内容
1	115 3.3%	316 9.0%	169 4.8%	2,800 79.9%	104 3.0%	3,504	42	あなたの学部を教えてください。 A：商学部 B：総合経営学部 C：経営情報学部 D：外国語学部 E：短大
2	1,390 39.6%	1,281 36.5%	520 14.8%	321 9.1%	0 0.0%	3,512	34	あなたの学年を教えてください。 A：1年 B：2年 C：3年 D：4年

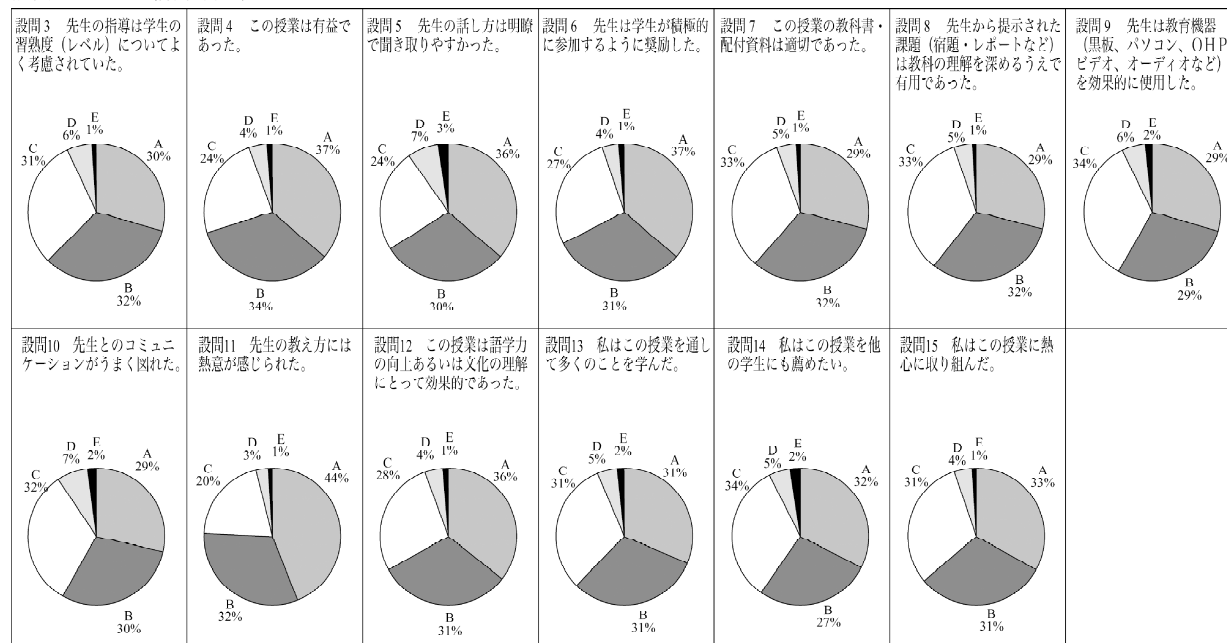
*設問3～15は次の基準に従って教えてください。 A：全くその通りである B：その通りである C：普通
D：そうではなかった E：全然そうではなかった

*平均ポイントは、A＝5点、B＝4点、C＝3点、D＝2点、E＝1点として計算したもの。

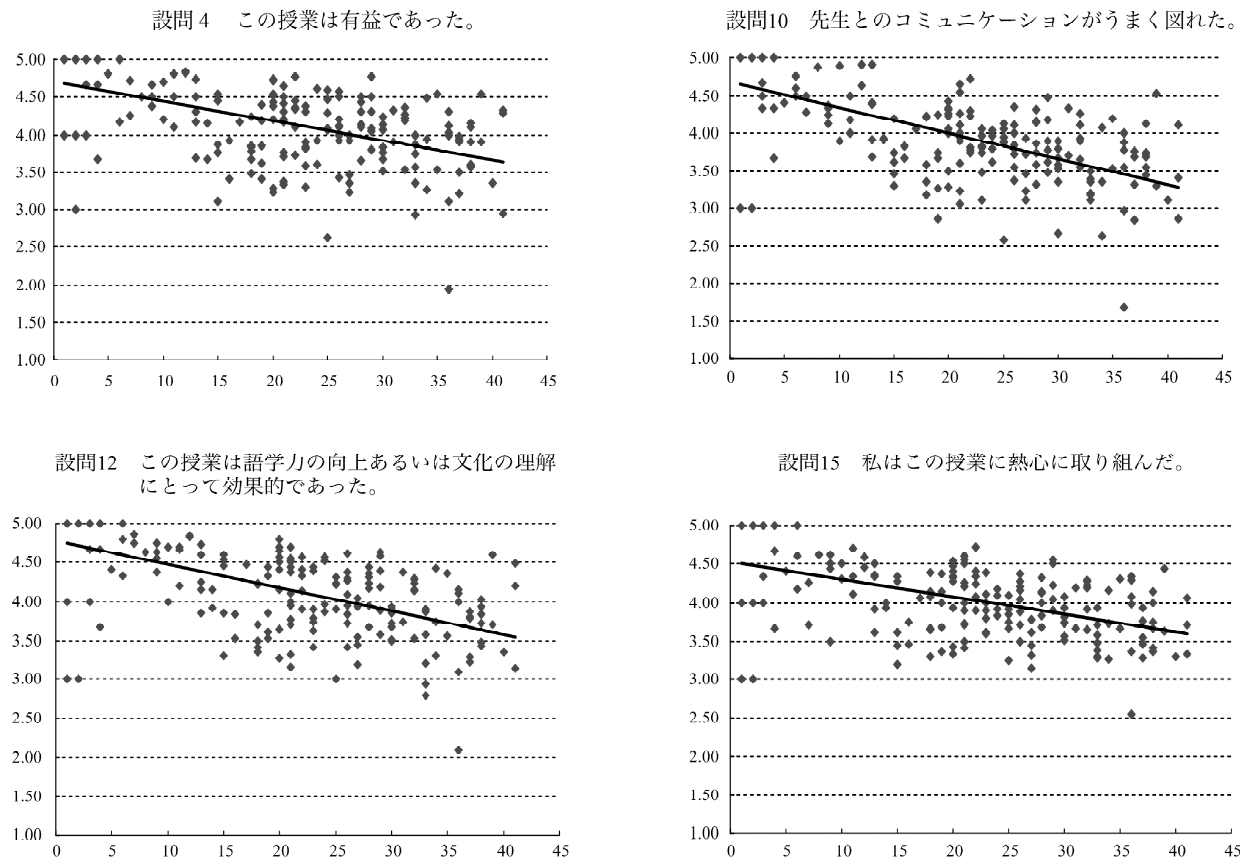
設問	A (5)	B (4)	C (3)	D (2)	E (1)	回答件数	回答 空白	平均 ポイント	設問内容
3	1,046 29.6%	1,162 32.8%	1,082 30.6%	206 5.8%	42 1.2%	3,538	8	3.84	先生の指導は学生の習熟度（レベル）についてよく考慮されていた。
4	1,280 36.2%	1,204 34.0%	854 24.1%	152 4.3%	48 1.4%	3,538	8	3.99	この授業は有益であった。
5	1,275 36.1%	1,058 29.9%	861 24.3%	250 7.1%	92 2.6%	3,536	10	3.90	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。
6	1,277 36.1%	1,108 31.3%	971 27.4%	134 3.8%	49 1.4%	3,539	7	3.97	先生は学生が積極的に参加するように奨励した。
7	1,020 28.8%	1,157 32.7%	1,163 32.9%	161 4.6%	36 1.0%	3,537	9	3.84	この授業の教科書・配付資料は適切であった。
8	1,021 28.9%	1,115 31.5%	1,210 34.2%	162 4.6%	27 0.8%	3,535	11	3.83	先生から提示された課題（宿題・レポートなど）は教科の理解を深めるうえで有用であった。
9	1,044 29.6%	1,013 28.7%	1,222 34.6%	198 5.6%	55 1.6%	3,532	14	3.79	先生は教育機器（黒板、パソコン、OHP、ビデオ、オーディオなど）を効果的に使用した。
10	1,014 28.6%	1,050 29.7%	1,142 32.3%	253 7.1%	81 2.3%	3,540	6	3.75	先生とのコミュニケーションがうまく図れた。
11	1,549 43.8%	1,136 32.1%	713 20.2%	97 2.7%	42 1.2%	3,537	9	4.15	先生の教え方には熱意が感じられた。
12	1,254 35.4%	1,111 31.4%	975 27.5%	152 4.3%	48 1.4%	3,540	6	3.95	この授業は語学力の向上あるいは文化の理解にとって効果的であった。
13	1,111 31.4%	1,090 30.8%	1,107 31.3%	171 4.8%	59 1.7%	3,538	8	3.85	私はこの授業を通して多くのことを学んだ。
14	1,148 32.4%	969 27.4%	1,159 32.7%	178 5.0%	85 2.4%	3,539	7	3.82	私はこの授業を他の学生にも薦めたい。
15	1,162 32.9%	1,089 30.8%	1,095 31.0%	145 4.1%	39 1.1%	3,530	16	3.90	私はこの授業に熱心に取り組んだ。

図表10 語学科目の評価の比率

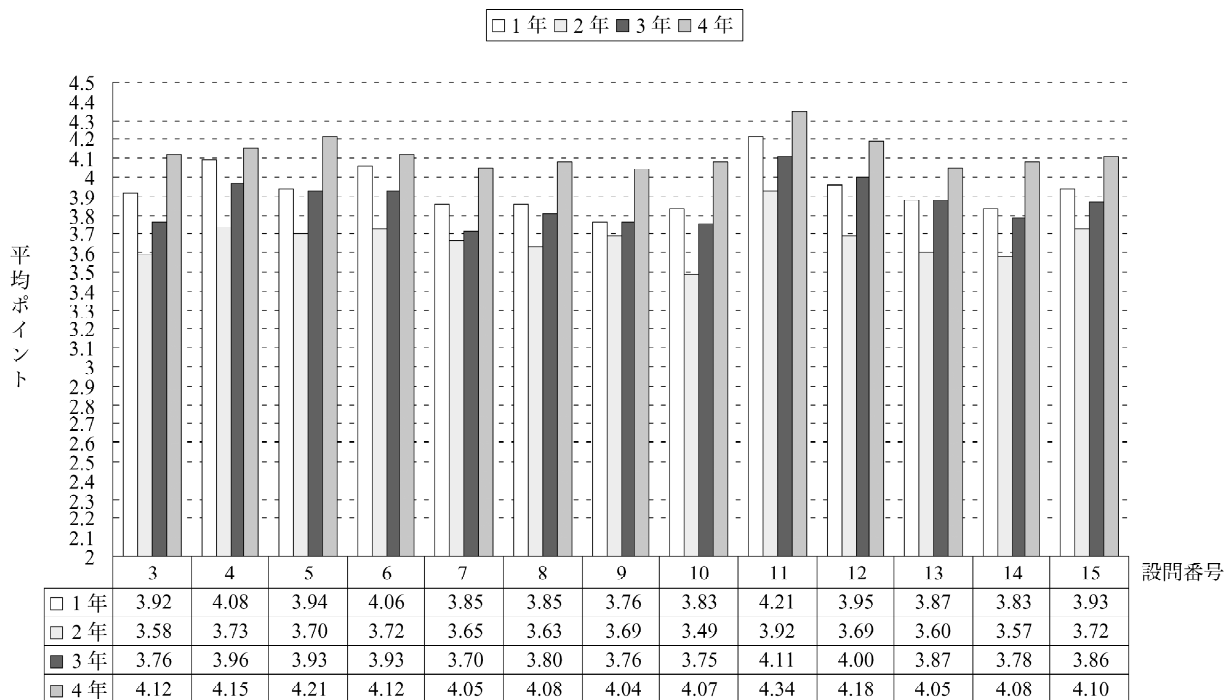
設問別グラフ（語学科目）



図表11 語学科目のクラスサイズ依存性



図表12 語学科目の学年別平均ポイント



図表13 語学科目の設問間の相関係数

	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14	設問15	設問のキーワード
設問 3		0.88	0.85	0.85	0.85	0.85	0.59	0.89	0.79	0.82	0.82	0.85	0.76	[習熟度]
設問 4			0.88	0.87	0.86	0.82	0.57	0.88	0.87	0.91	0.92	0.89	0.83	[有益性]
設問 5				0.85	0.81	0.75	0.53	0.87	0.85	0.84	0.85	0.87	0.77	[話し方]
設問 6					0.87	0.81	0.58	0.85	0.88	0.86	0.85	0.85	0.82	[参加]
設問 7						0.83	0.64	0.84	0.83	0.87	0.87	0.89	0.87	[資料]
設問 8							0.66	0.83	0.77	0.81	0.79	0.81	0.74	[課題]
設問 9								0.54	0.52	0.56	0.57	0.62	0.58	[教育機器]
設問10									0.86	0.88	0.89	0.88	0.84	[コミュニケーション]
設問11										0.90	0.88	0.87	0.83	[先生の熱意度]
設問12											0.94	0.91	0.86	[学力向上・文化]
設問13												0.92	0.89	[習得]
設問14													0.90	[推薦]
設問15														[学生の熱心度]

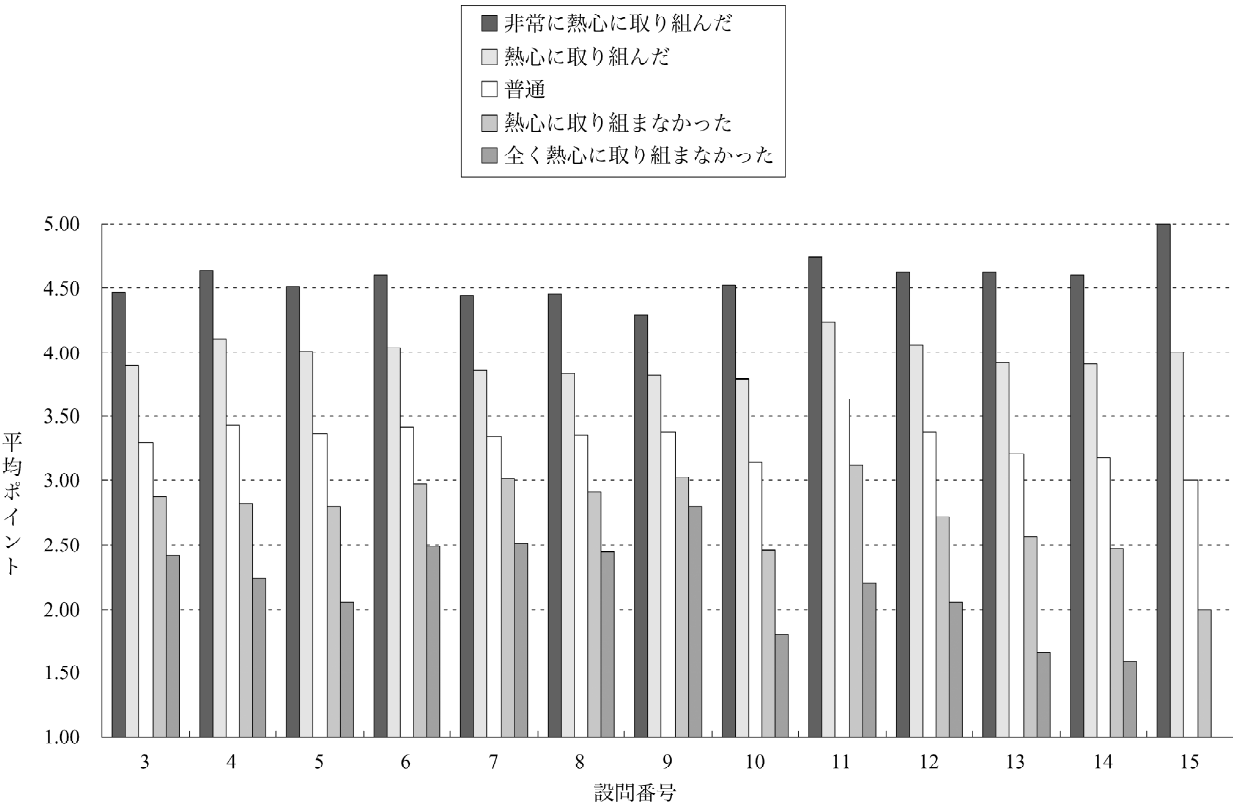
を下表に示す。どの設問の平均ポイントも学生の熱心度が1ランク上がるごとに平均ポイントが0.5程度と大幅に上昇している。

非常に熱心に取り組んだ学生はどの設問にも高く評価している。最も低い値でも[教育機器]の4.3と高い。熱心に取り組まなかったD、Eの学生が特に

低い平均ポイントの項目は設問10[コミュニケーション]、設問13[修得]である。これは熱心に取り組まない学生には教員とのコミュニケーションが大切であり、また学ぶことを求めていると解することができる。

語学科目では図表10に示したように「非常に熱心」

図表14 学生の熱心度別平均ポイント



学生の熱心度	他の設問の平均ポイント	設問の平均ポイント を平均した値
非常に熱心に取り組んだ	4.3～4.7	4.5
熱心に取り組んだ	3.8～4.2	3.9
普通	3.2～3.6	3.3
熱心に取り組まなかった	2.5～3.1	2.8
全く熱心に取り組まなかった	1.6～2.8	2.3

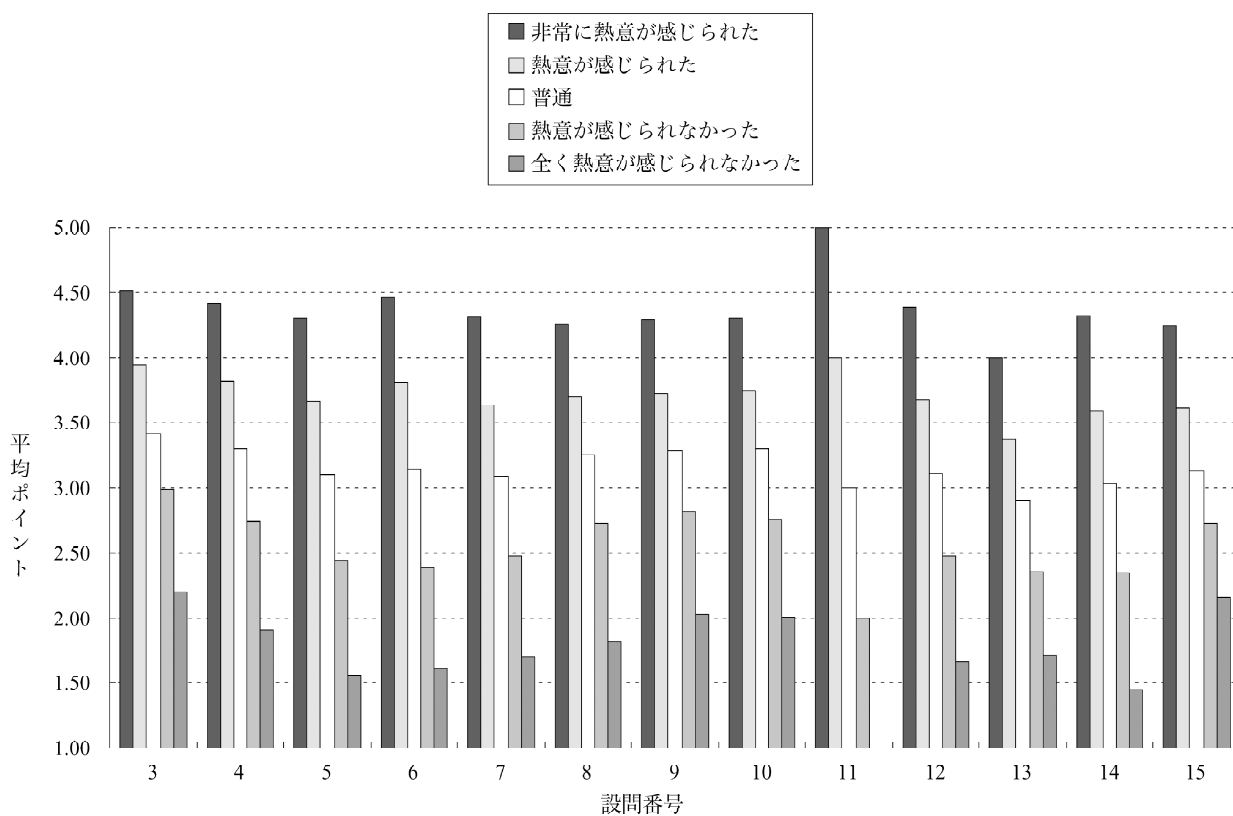
および「熱心」な学生が受講生の 2 / 3 の多数を占めている。それらの学生からの評価ポイントが高く、語学科目の設問の平均ポイントを高くしていると考えられる。

(6) 教員の熱意

今回も例年通り、設問11 [教員の熱意度] の平均ポイントは設問のなかで最も高かった。学生からみた教員の熱意度で分類し、平均ポイントを表したグラフを図表15に示す。図表9によれば教員の熱意は

3 / 4 の学生が評価している。教員の熱意を高く評価した学生は他の設問についても高いポイントを与えている。教員の熱意をD、Eと低く評価した学生が特に低い平均ポイントを与えている項目は設問5 [話し方]、設問10 [コミュニケーション]、設問12 [語学力・文化]、設問13 [修得] である。語学科目においては学生とのコミュニケーションが大切であることが示唆される。

図表15 教員の熱意度別平均ポイント



3.3 体育科目

(1) 平均ポイントと比率

体育科目では16クラスで、サンプルの総計は約500点である。平均ポイントと比率の集計結果を図表16に示す。体育科目の平均ポイントはいずれも4以上と高い値である。否定的な回答はほとんどの設問で1%以下である。体育科目を選択する学生は運動に関心が深く、楽しんで受講しているためであろう。体育科目のポイントは極めて高く、授業調査票による検討は本稿では省く。

4. 授業をよりよくするために

授業調査結果の分析から授業を一層魅力あるものとするための留意点について考察する。

(1) 学生の意欲付け

学生の熱心度は評価ポイントに大きく影響する。熱心度が1ランク上がれば平均ポイントが0.5以上上

昇していることはすでに述べた。すなわち同じ授業であっても学生の授業への取組み姿勢によって受け止め方が大きく異なっていることを意味している。熱意ある学生には魅力があり、理解もでき、有益と受け止められている授業が熱意のない学生には魅力はなく、理解できなく、有益でない授業となっている。学生にいかに関心をもって授業に向かわせるかが課題となる。

教育の最も重要な役割の一つは学生への意欲付けと言われているが、授業調査の結果はまさにそれを裏付けるものとなっている。上手く意欲付けができた学生は自ら学ぶ姿勢ができ、授業に対しても熱心に取り組む、自分でやり拓く自主性も醸成されていく。自主性は個々の学生の問題ではあるが、教員にはいかに意欲付けを仕向けるかが課題である。

一般科目の設問間の相関をあらわしている図表6からすれば、学生は知的興味を引き付ける授業に関心を示している。学生にとって知的興味とは何か。学生たちからのヒヤリングによれば、総合経営学部

図表16 体育科目の評価の比率と平均ポイント

集計結果（語学科目）

データ件数484件

設問	A	B	C	D	E	回答件数	回答空白	設問内容
1	85 17.9%	238 50.1%	112 23.6%	33 6.9%	7 1.5%	475	9	あなたの学部を教えてください。 A：商学部 B：総合経営学部 C：経営情報学部 D：外国語学部 E：短大
2	196 41.3%	185 38.9%	73 15.4%	21 4.4%	0 0.0%	475	9	あなたの学年を教えてください。 A：1年 B：2年 C：3年 D：4年

*設問3～15は次の基準に従って教えてください。 A：全くその通りである B：その通りである C：普通
D：そうではなかった E：全然そうではなかった

*平均ポイントは、A＝5点、B＝4点、C＝3点、D＝2点、E＝1点として計算したもの。

設問	A (5)	B (4)	C (3)	D (2)	E (1)	回答件数	回答 空白	平均 ポイント	設問内容
3	325 67.3%	102 21.1%	53 11.0%	2 0.4%	1 0.2%	483	1	4.55	この授業の目的ははっきりしていた。
4	342 71.0%	104 21.6%	36 7.5%	0 0.0%	0 0.0%	482	2	4.63	この授業は有益であった。
5	249 51.6%	119 24.6%	111 23.0%	2 0.4%	2 0.4%	483	1	4.27	この授業は重点がわかりやすく工夫されていた。
6	288 59.8%	117 24.3%	72 14.9%	4 0.8%	1 0.2%	482	2	4.43	先生の指示は的確であった。
7	306 63.4%	123 25.5%	53 11.0%	1 0.2%	0 0.0%	483	1	4.52	この授業はチャレンジ精神を高めるものであった。
8	273 56.6%	120 24.9%	81 16.8%	6 1.2%	2 0.4%	482	2	4.36	先生の教え方には熱意が感じられた。
9	221 45.8%	137 28.4%	113 23.4%	8 1.7%	4 0.8%	483	1	4.17	先生とのコミュニケーションがうまく図れた。
10	365 75.6%	88 18.2%	28 5.8%	1 0.2%	1 0.2%	483	1	4.69	私はこの授業で身体を動かすことの楽しさを味わう ことができた。
11	321 66.5%	119 24.6%	42 8.7%	0 0.0%	1 0.2%	483	1	4.57	この授業は基礎体力・技術向上に役立つものであっ た。
12	378 78.3%	82 17.0%	22 4.6%	1 0.2%	0 0.0%	483	1	4.73	これからもスポーツ活動を続けたい。
13	356 73.7%	80 16.6%	45 9.3%	1 0.2%	1 0.2%	483	1	4.63	私はこの授業を他の学生にも薦めたい。
14	370 76.8%	72 14.9%	38 7.9%	2 0.4%	0 0.0%	482	2	4.68	私はこの授業に熱心に取り組んだ。

や経営情報学部の社会科学系の学生にとって知的興味とは社会の仕組みや社会の動向を知ることである。また有益とは社会に出たとき役立つ知識を指している。抽象的な理論や単調になりがちな講義のなかで実社会での事象を引用し、具体的に解説することで学生の興味を引きつけることは有効な手段である。そのなかから学生は多くのことを学び、有益な授業だったと受け止めている。教員側からすれば学生に生きた知識を提供していることを判らせることが重要であろう。

語学科目においては教師とのコミュニケーションや多くのことを学ぶことが意欲付けに重要であることを示している。語学科目ばかりでなく一般科目においても前期と比べて後期は平均ポイントが0.1～0.2高くなる。これは教師と学生の信頼関係の形成が大切であることを示唆するものであろう。多くのものを修得しようとすることは学生の本来の姿であり、学生の姿勢は評価できるものである。

学生から授業の目的がよく判らないとする声をしばしば耳にした。今回一般科目において設問3〔目的〕を設定した。多くの教員は授業の目的を学生に適切に説明し、設問3の評価ポイントがこれまでの調査のなかで最も高くなった。前年と比べて設問の平均ポイントを比較すると設問7〔知的興味〕、設問13〔理解度〕が高くなっている。授業の目的が学生に明確に伝わり、よい方向に向かっていると解することができる。

(2) 有益性

学生が有益と評価する授業とは勿論内容が充実していることが第一であるが、それだけで十分であるわけではない。学生が満足できるよい授業とするためには教授内容に加えて適切な教授法が要求される。授業調査結果はその教授法に関して重要な示唆を与えてくれるのである。3.1節(4)項で授業の有益性と相関の極めて高い設問について言及したが、それによれば、学生が有益と評価する授業は知的興味を引き付けるもので、重点がわかりやすく、よく理解でき、多くのことが修得できたものである。そのような授業には学生自身も熱心に取り組み、また他の学生に

も受講を薦めている。

(3) 理解度

設問13〔理解度〕は一般科目のなかで平均ポイントが最も低い項目である。[非常によく理解した]と「理解した」学生の比率は37%、普通が45%、[理解できなかった]と[全く理解できなかった]学生が18%である。この項目については個々のクラスの詳細をさらに検討する必要があるが、一般論としては妥当な比率と考えられる。理解度に関してはトップクラスを育てることが重要とする意見から底辺レベルの学生まで視野に入れることが必要とする見解まで様々あるが、少なくとも高等教育では少し背伸びしながら学ぶことが能力アップのために必要なことであり、安易に易きにつくことはむしろ害となる危険性がある。理解度の評価ポイントを高くするために授業のレベルを下げることは慎まなければならない。講義のなかでは十分理解できなかったことがその後なにかのきっかけで一気に解ることはしばしば経験することである。

5. あとがき

本稿では平成14年度前期授業調査の結果をベースに授業改善の留意点について検討した。今回の検討は主に一般科目、語学科目、体育科目それぞれを一つの群としてマクロな視点から分析を進めた。そこからいくつかの点を提言した。授業調査結果の信ぴょう性については議論が多い。無記名であるため無責任な回答も混在している。それらのことを承知の上、子細に囚われることなく全体像を把握することは意義あることであろう。

本稿は授業調査からの視点で授業改善について提言をしたが、授業改善の多くのアプローチの一つに過ぎない。授業調査の立場からしても、本稿でみたように平均ポイントは個々のクラスにより大きなばらつきがある。評価の高い授業、評価の低い授業について個々の授業に注目して扱うミクロな視点が必要であろう。今後の課題である。

筆者は平成14年度授業調査委員会委員長の立場

で、教員各位に授業調査結果を幅広く活用していただくため本稿を起稿した。いささかなりとも授業の構成に参考になるところがあれば幸いである。

最後に名古屋商科大学における授業調査システムを構築し、定着に尽力された栗本宏学長、FD推進委員会委員長小橋哲総合経営学部長、教務委員長垣谷宏子教授を始めとする関係各位、また平成14年度授業調査委員会委員である総合経営学部加藤昌彦教

授、川端康講師、経営情報学部妹尾稔教授、原田義久教授、外国語学部植村猛教授、二神真美教授、西井和弥助教授、データ処理を担当された教学部門大原謙一氏に深甚なる謝意を表します。

参考文献

- 1) 例えば、『現代の高等教育』No. 447 (2003年3月)「FDのヒント」民主教育協会
- 2) 名古屋商科大学『21世紀の大学像を求めて』(2000年)